

研究課題

「看護職の現任教育推進プログラムの開発及びアクションプランの作成(認定看護師の育成)」
～茨城県における認定看護師の役割と活動の現状～

- 研究代表者 看護学科 教授 服部 満生子
○研究分担者 看護学科 教授 野々村 典子・堀内 ふき・市村 久美子・加藤 令子
(10名) 看護学科 助教授 梶原 祥子・黒木 淳子
看護学科 講師 川波 公香
看護学科 助手 秋野 恵理・定村 美紀子・白坂 誉子

- 研究年度 平成18年度
(研究期間) 平成18年度～平成19年度(2年間)

1. 研究目的

茨城県立医療大学(以下本学という)では、2007年10月に摂食・嚥下障害看護分野の認定看護師教育課程が開設されることになった。認定看護師が、取得後にその資格を生かし、効果的に活動ができることが重要であり、認定看護師の育成を担うことになった本学の役割は大きいと考える。今回、茨城県における認定看護師の役割と活動の調査を行い、認定看護師に関する課題について検討を行った。

2. 研究方法

対象は、2006年3月の時点で茨城県において認定看護師の資格を有している看護職、その所属機関の看護部責任者、認定看護師とともに働く看護スタッフである。方法は、自記式質問紙を用いたアンケート調査および面接による聞き取り調査である。この調査研究は、本学の倫理委員会の審査を受けて実施した。

3. 研究結果

調査協力の同意は、10の医療機関から得られた。回答は、認定看護師14名(回収率77.8%)、看護部責任者6名(回収率60%)、看護スタッフ421名(回収率63.8%)から得られた。看護スタッフ421名については、質問紙の回答不備等を除き、看護部長35名、主任42名、看護師スタッフ307名の計384名で分析を行った。

1)認定看護師本人

- (1)認定看護師14名は、救急看護1名、創傷・オストミー・失禁(WOC)看護5名、重症集中ケア1名、ホスピスケア4名、感染管理1名、不妊看護1名、透析看護1名である。年齢は31歳～44歳であり、看護職としての経験年数は10年以上15年未満が9名、15年以上20年未満が4名、20年以上が1名であった。職位は、師長1名、主任8名、スタッフ4名、その他が1名であった。取得年齢は28歳から39歳の間であり、認定看護師としての経験年数は、1年未満1名、1年以上2年未満5名、2年以上3年未満2名、3年以上4年未満3名であり、5年以上6年未満、6年以上7年未満、7年以上8年未満がそれぞれ1名ずつであった。
- (2)認定看護師取得後の職位は、主任から師長へ、スタッフから看護係長などへの昇格が5名であった。取得後の勤務内容は、職位に伴う業務を優先しながら、自分の時間を使って認定看護師として活動しているのが7名、独立したポジションで、時間と業務内容を自由裁量しているのが5名、1週間に何日か限られた時に活動しているのが2名であった。施設内の活動にとどまらず施設外の研修の講師などの活動も行っているのが11名であった。
- (3)認定看護師としての自分の現在の状況については、とても満足している1名、まあまあ満足している6名、あまり満足していない6名、全く満足していないが1名であった。満足している理由としては、活動時間が保証されているなど施設の理解があげられていた。満足できていない理由としては、看護師不足や認定看護師として活動できる時間がないこと、また自分の力不足や相談できる人がいないことがあげられていた。

認定看護師としての活動の自己評価については、自信を持ってできるが1名、まあまあできるが7名、少し自信がない3名、どちらともいえない3名であった。自信を持ってできている理由としては、臨床の場で活動の成果がみられていることや他者からの良い評価を受けていることがあげられていた。また、施設内での自分以外の認定看護師の存在も自信につながるということであった。自信のない理由としては、限られた活動しかできないことや経験が少なく活動がこれでいいのか不安になることがあげられていた。そして、13人の認定看護師が、活動を行っている中で困難や悩みがあると回答していた。その内容は、施設内外の役割と仕事量が多く多忙であること、自己学習の時間が取れないこと、施設内に自分のスーパーバイザーがいないなどの悩みであった。また、一部の看護師から認定看護師の介入の必要性がないといわれることも、悩みとしてあげられていた。

2)看護部責任者

認定看護師の採用について、施設の内規などで規定されているのは6施設中4施設、規定されていないのが2施設であった。規定されている4施設はその内規はまあまあ整っていると回答していた。認定看護師の配置については、6施設中1施設でよく配慮されているとしており、5施設ではまあまあ配慮されていると回答していた。しかし、認定看護師に対する職位や給与などの処遇に関しては、よく配慮されている1施設、まあまあされているが2施設、あまりされていないが1施設、全くされていないが1施設であった。看護部責任者6名全員が、今後認定看護師の採用をもっと増やしたいと回答していた。

3)看護スタッフ

認定看護師はとてよく活躍していると回答したのは155名(43.3%)、まあまあ活躍しているのは156名(43.6%)、どちらともいえないはそれぞれ29名(8.1%)であった。認定看護師に対してとても期待しているのは171名(49.1%)、まあまあ期待している132名(37.9%)、どちらともいえない31名(8.9%)であった。認定看護師はとてよく貢献しているとしたのは122名(34.8%)、まあまあ貢献しているのは163名(46.4%)、どちらともいえない40名(11.4%)であった。認定看護師の存在によって看護実践能力がとてよく向上していると回答したのは69名(19.8%)、まあまあ向上しているのは173名(49.6%)、どちらともいえない73名(20.9%)であった。今後、自分も認定看護師を絶対取得したいと回答したのは6名(1.6%)、できれば取得したいは143名(38.1%)、どちらでもよいはそれぞれ92名(24.5%)、あまり取得したくないは32名(8.5%)、取得したくないは38名(10.1%)であった。取得したいと思う理由は、専門性を高めることによって、自分のスキルアップとともに、より効果的なケアを提供できるからということが多かった。反対に取得したくない理由は、認定と通常業務の両立は難しいこと、仕事が増えること、取得後のメリットが感じられないなどの仕事面での理由が多く、また自分の年齢的なことや家庭、子育てとの両立の難しさという理由があげられていた。

4)認定看護師の知名度、役割の理解度について

認定看護師が、看護職および他の医療職、患者、一般の人たちからどのように認知されているかについて、知名度および理解度として5段階(全くされていない0%を1点~よくされている100%を5点)評価を行った。認定看護師についての知名度は、看護部の上司がもっとも高く(4.77±0.51)、次に同僚(4.33±0.74)、続いて医師(3.60±1.00)コメディカル(2.99±0.99)、患者(1.94±0.70)、患者家族(1.86±0.70)、一般の人(1.62±0.67)の順であった。認定看護師の役割についての理解度は、看護部の上司がもっとも高く(4.22±0.80)、次に同僚(3.72±0.81)、医師(3.03±0.95)、コメディカル(2.49±0.94)、患者(1.66±0.72)、患者家族(1.57±0.67)、一般の人(1.41±0.60)の順であった。その中で、認定看護師本人が考える上司の理解度は3.43±0.65であり、そのほかが考えている理解度に比べ有意に低くなっていた(p<0.05)。

4. 結論

今回、本学に認定看護師の教育課程が開設されるにあたり、茨城県内の認定看護師に関する調査から、認定看護師を取り巻く状況に関して課題が確認できた。

認定看護師は、一つのキャリアアップの方向性や活動の選択肢を広げられたことは確かである。また、患者・家族が真に看護職に求め、期待される役割を遂行できる総合力を持つためにも、現任看護師への教育は、地域ぐるみの看護の資質向上に結びつくものである。したがって、茨城県における教育機関としての本学が担う役割は大きく、臨床現場に必要とされる認定看護師の教育体制と教育の質を担保できるように、教育現場を構築していくことが必要であり、さらに地域の施設との協力や支援など連携が重要である。

5. 成果の発表(今後の予定)

- 1) 報告書の作成(3月中旬)
- 2) 学会発表(日本看護学会-看護教育- 2007年8月 千葉市)
- 3) 論文投稿(2007年度)

6. 参考文献

- 1) 服部満生子, 黒木淳子, 梶原祥子, 定村美紀子, 堀内ふき, 小松美穂子:茨城県内に従事する看護職者の継続教育に対するニーズ調査. 茨城県立病院医学雑誌, 2005;23(1):9-21
- 2) 日本看護協会:認定看護師規則及び細則. 看護, 48(6):94-101, 1996
- 3) 看護白書 平成15年版 看護理論・認定看護師制度・資料編 日本看護協会編 2003年
- 4) 道又元裕:認定看護師教育の現状と看護-臨床現場に必要とされるCENの育成をめざして-. 看護教育, 46(9):744-754, 2005
- 5) 孫継紅, 竹内登美子:日本の認定看護師と専門看護師に関する文献研究. 臨床看護, 29(11):1721-1730, 2003
- 6) 孫継紅, 竹内登美子, 石井秀宗:重症集中ケア認定看護師の役割と看護実践での成果に関する実態調査研究. 臨床看護, 30(4):587-592, 2004
- 7) <http://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/nintei/ichiran.html> 2006年2月23日